

平成22年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	ひとり親家庭医療費助成事業				開始年度	昭和54年度	
基本目標	社会福祉の充実したまちづくり				終了年度		
担当課(局)	健康福祉課	担当係	子ども支援係	記入者	佐藤 留美	評価者	井上 敏郎
21年度決算	7,767	千円	22年度予算	7,778	千円	事業の実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	1,258 千円		22年度人件費	1,275 千円		事業従事者数	0.18 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	ひとり親家庭の経済的負担を軽減し、健康増進と福祉の向上を図る。
事業の内容	20歳未満の者を扶養している配偶者のない女子又は男子及びその世帯員又は父母のない児童で、児童扶養手当法に規定する所得の範囲内の人が対象。 助成対象者一人ごとに、一診療月保険診療分負担額の合計から1,000円を引いた額を助成。 平成20年10月から助成対象を拡充し、父子家庭も助成対象としたため、名称を母子家庭医療費からひとり親家庭医療費に変更した。

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 一部負担金	3割の医療費負担から高額療養費、付加給付費、自己負担額を差し引いたもの。
	2 県補助金	平成20年10月診療分から、県の補助基準が拡充し、父子家庭も助成対象となった。
	3 受給者数	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 助成件数	
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	一部負担金	目標値			
		実績値	円	7,719,803	7,421,671
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	県補助金	目標値	円		
		実績値		3,859,000	3,710,000
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	受給者数	目標値	人		
		実績値		774	676
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
活動指標	助成件数	目標値	件		
		実績値		1,450	1,540
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	1. 公共性を考えると、町が行うべき事業である。 2. 同様の事業は、他課・他団体は行っていない。 3. 廃止するとひとり親家庭の低所得者層は思うように治療が受けられず、健康を損なったり、経済的負担が増加し、生活状況が悪化する懸念が生じる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	成果は高いと考える。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	平成19年4月診療分から、県補助基準に合わせ、一人月額1000円の自己負担をしてもらうことにより、安易な受信や重複受信の抑制につながり、結果、全体的な医療費の削減となった。 今後も同様のかたちで事業を継続していくのが適当と思われる。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	なし。

事務事業名	ひとり親家庭医療費助成事業	担当課(局)	健康福祉課
-------	---------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	現行制度の維持が適当である。	今後の方向性				
			事業の方向性	拡充			
			現状維持			○	
			縮小				
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎本来ならこのような制度は縮小できたら一番良いのだが、現行の制度を維持しなければならない(法定義務であるのか)。 ※「県の補助事業であり、事務事業評価に馴染まないのではないか」という意見もあり、次回以降に要検討。
	コスト	現状維持	